

国内外規格・認証制度研究会(第20回) 議事録

日時:2011年9月14日(水) 15:00~17:30

場所:富士通総研会議室(竹芝)

出席者(敬称略):石川、日下、増田、三島、有菌、高橋(哲)/記録 … 6名

(1) 最新情報共有:

9月の運営会議までに、BCAO各研究会は今年度の予算執行計画などについて報告することを求められている(本件については座長が対応)

(2) 今年度研究会運営体制(案)について(次回より)

座長:折笠様(新任)、副座長:有菌様(新任)、高橋(留任)

以上を出席者としては承諾。本案を現座長がBCAO運営会議にはかり、正式承認を得る。

石川座長は今回をもって退任のご意向。今後も研究会の一員としては参加していただける。

折笠新座長(現副座長)は急な都合により本日欠席されたが、座長就任の内諾はいただいている。

(3) 今年度の研究テーマについて

石川座長・高橋より提案

『東日本大震災における事業継続行動の経験と教訓をまとめ、規格への反映可否を検討』

- ・ 東日本大震災は、事業継続管理・危機管理・リスク管理の知見を拡充し、次への備えに活かす機会とすべき重大な事象であった
- ・ 教訓を活かすための取り組みは、日本および他国の様々なところで企図され、すでに始まっているところも多いと思われるが、本研究会としては「規格の改善に関する提案」という形を取ることで研究に意義をもたせてはどうか、と提案
- ・ 出席者からは、被災の教訓は具体策の改善につながる所が多いと想像され、一般論である規格との距離、どこまで関連できるか、という疑問・懸念が示された
- ・ しかしマネジメントシステムの核の部分とはかく、「警報」「訓練」といった個別分野の規格(衛星規格)については検討してみる余地があるとの期待により、それらを中心にまず取り組んで見ることと合意した
- ・ 昨年度検討していた内容「ディストラクション特性」については、保留とする

進め方

- ・ 震災対応について、閲覧可能な報道や研究資料をあたり、うまく行った点、行かなかった点など事例を拾い上げていく
- ・ 規格について、上記実例を参考に「発行されている現行規格の問題・課題」あるいは「審議中の新規規格への提案」となり得るポイントをいくつか挙げる。未発行の規格についても、公開情報を調査し、分かる範囲で規格趣旨を把握する
- ・ 研究会の場で、上記ポイントを報告し、参加者でディスカッション
- ・ 公開済みの規格については研究成果として修正提案を公表できる
- ・ 非公開で審議中のものについては、我々はその内容を憶測できるのみであり、明示的な修正提案は不可能。しかし、ある特定分野の規格であれば必要と思われることを、WGでの議論の流れとは関係なく提案する形ならば可能(BCAOにはWGの主要メンバーもおり、参考意見として提示することで、研究成果を実際の審議に繋げることもできるはず)
- ・ 皆さんの進行具合をみて、次回の発表項目を選定する
- ・ 今回割り振った担当は以下のとおり:

日下 ISO 22301 PCMS要求事項

高橋	ISO 22320	指揮調整
三島	ISO 22322	警報システム
石川	ISO 22398	訓練と試験
増田	ISO 22397	官民連携
有菌	ISO PAS 22399	IPOCMガイドライン
田代*	ISO 27031	事業継続性のためのICT
折笠*	ISO 31000	リスクマネジメント原則・指針

(*): 今回はご欠席だが、割り振らせていただいた

(4) 東日本大震災時における事業継続行動の経験と教訓の概況
各人の経験と気づきを共有(オフレコ)

(5) 次回開催

- ・ 2011年11月18日(金) 15:00 - 17:30 場所は追って連絡

以上